

環境モニタリング結果の解析について（詳細）

（平成 27 年 9 月 29 日～平成 27 年 10 月 5 日公表分）

平成 27 年 10 月 7 日
原子力規制委員会

『総合モニタリング計画』に基づき、関係機関が実施し、平成 27 年 9 月 29 日～平成 27 年 10 月 5 日に公表されたモニタリングの結果は以下のとおりです。

なお、ここでのモニタリングとは、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故後に、日本の環境中の放射性物質濃度がどのように変化しているかを継続的に測定しているものです。

I. 福島県全域等の環境（陸域、海域）モニタリング結果

1 空間線量率

- 東京電力株式会社福島第一原子力発電所 20km 圏内のサーベイメータ及びモニタリングポストによる空間線量率は、全体的には減少傾向にあるものの、比較的高い空間線量率で推移しています。（参考資料 1～7 ページ及び下記参考 URL 参照）
- 東京電力株式会社福島第一原子力発電所 20km 圏外のサーベイメータ、モニタリングポストによる空間線量率及び積算線量計による 1 週間及び 1 月間の積算値は特別の変化はなく、以前と同様に局所的に $1\mu\text{Sv/h}$ を超える高い空間線量率が観測されている箇所が認められます。（参考資料 8～27 ページ及び下記参考 URL 参照）

○参考 URL

東京電力福島第一、第二原子力発電所周辺及び福島県のモニタリングポストの測定結果

<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

以上、空間線量率については、全体的に減少傾向にありますが、前回と比較すると特別の変化はありませんでした。

2 月間降下物

- 福島県における放射性物質の降下量（平成 27 年 7 月分）の放射性セシウムの最高値（Cs-137）は、 $160\text{Bq/m}^2 \cdot \text{月}$ であり、他県と比べて高い値が観測されています。（参考資料 40 ページ参照）

以上、月間降下物については、全体的に減少傾向にあります、前回と比較すると特別の変化はありませんでした。

3 海水・海底土の放射性物質濃度

(1) 海水

- 東京電力株式会社福島第一原子力発電所近傍の海水
平成27年9月27日～10月3日に採取した海水に含まれる放射性セシウムは、いずれも検出下限値未満(Cs-134:<1Bq/L、Cs-137:<1Bq/L)でした。(参考資料28～32ページ参照) ※1
平成27年9月7日、14日に採取した海水に含まれる放射性セシウムの最高値(Cs-137)は、0.96Bq/Lであり(参考資料34ページ参照)、濃度限度(注1)を下回っていました。 ※2
平成27年9月23日～30日に採取した海水に含まれるH-3は、検出下限値未満(<2Bq/L)でした。(参考資料28～32ページ参照)
平成27年9月27日～10月3日に採取した海水に含まれる全β(蒸発乾固法)の最高値は、16Bq/Lでした。(参考資料28ページ参照)
※1：東京電力によるモニタリング(Cs日常分析)、※2：東京電力によるモニタリング(Cs詳細分析)
- 東京電力株式会社福島第一原子力発電所周辺の海水
平成27年9月1日～8日に採取した海水に含まれる放射性セシウムの最高値(Cs-137)は、0.087Bq/Lでした。(参考資料34ページ参照)
- 福島県沿岸・沖合の海水
平成27年9月2日、4日に採取した海水に含まれる放射性セシウムの最高値(Cs-137)は、0.14Bq/Lでした。(参考資料35ページ参照)
- 宮城県沿岸の海水
平成27年9月1日、2日に採取した海水に含まれる放射性セシウムの最高値(Cs-137)は、0.012Bq/Lでした。(参考資料36ページ参照)

(2) 海底土

- 宮城県・福島県・茨城県・千葉県沖の海底土
平成27年7月29日～8月10日に採取した海底土に含まれる放射性セシウムの最高値(Cs-137)は120Bq/kg・乾土でした。(参考資料37ページ参照)

以上、海水の放射性物質濃度については、全体的に減少傾向にあります、前回と比較すると特別の変化はありませんでした。また、海底土の放射性物質濃度については、前回と比較すると特別の変化はありませんでした。

II. 全国のモニタリング結果

1 空間線量率

- ・ 全国の空間線量率については、下記の URL にて測定結果が公表されています。

全国の測定結果

<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

なお、全国の既設のモニタリングポストの所在地は、下記の URL をご参照ください。

http://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/1000/211/0/Location_and_GPS_data_of_monitoring_posts_in_47_prefectures.pdf

空間線量率については、概ね事故以前の水準で推移しており、特別の変化もありませんでした。

2 月間降下物

- ・ 福島県と広島県を除く 45 都道府県における放射性物質の降下量（平成 27 年 8 月分）の放射性セシウムの最高値（Cs-137）は、 $3.7\text{Bq}/\text{m}^2 \cdot \text{月}$ であり、以前と同様に低い値が観測されています。広島県は、当該公表期間中に公表はありませんでした。（参考資料 41 ページ参照）

以上、月間降下物については、全体的に減少傾向にあります。前回と比較すると特別の変化はありませんでした。

III. その他のモニタリング結果

1 食品等のモニタリング結果

下記の URL をご参照ください。

食品中の放射性物質への対応について

http://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html

水産物の放射性物質調査の結果について

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/housyanou/kekka.html>

酒類等の放射能分析結果について

<http://www.nta.go.jp/shiraberu/senmonjoho/sake/anzen/radioactivity.htm>

水道中の放射性物質濃度について

http://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/suidou.html

2 【参考】：東京電力福島第一原子力発電所の港湾内のモニタリング結果

- ・ 東京電力株式会社福島第一原子力発電所港湾内の海水
平成 27 年 9 月 28 日～10 月 4 日に採取した海水に含まれる放射性セシウムの最高値（Cs-137）は、 $15\text{Bq}/\text{L}$ でした。

平成27年9月28日～10月4日に採取した海水に含まれる全β（蒸発乾固法）の最高値は、900Bq/Lでした。

平成27年9月21日、28日に採取した海水に含まれるH-3の最高値は、2,500Bq/Lでした。

平成27年9月28日～10月4日に採取した港湾口付近の海水に含まれる放射性セシウムの最高値（Cs-137）は、0.77Bq/Lでした。

平成27年9月28日～10月4日に採取した港湾口付近の海水に含まれる全β（蒸発乾固法）の最高値（Cs-137）は、21Bq/Lでした。

平成27年9月28日～10月3日に採取した港湾口付近の海水に含まれるH-3は、検出下限値未満（<2Bq/L）でした。

○参考URL

<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html>

（注1）

法令に定める周辺監視区域外の水中の放射性物質の濃度限度

I-131：40Bq/L、Cs-134：60Bq/L、Cs-137：90Bq/L、Sr-90：30Bq/L、H-3：60,000Bq/L

法令に定める周辺監視区域外の空気中の放射性物質の濃度限度

I-131：5Bq/m³、Cs-134：20Bq/m³、Cs-137：30Bq/m³